

はっぴー沿線

金太郎

POEM～季節の風

今から 55 年前私は小学校に上がる年だった
当時障害児教育は義務化されてなく
就学猶予が法で認められていた
学校に上がるにはある程度の理解力があり 学校での生活フォローは
家族がすることが条件
常にスーツとヒールの先生もちらほら
入試当日はその後 30 年記録に残る大雪
母たちは顔を合わせば「あの雪の日に」がごあいさつ
保育園制度も今ほど豊かでなく弟や妹同伴の登校は当たり前
でもそこまでして教育を受けさせてくれた両親
そんなハザマで何らかの犠牲にならざる得なかった妹たちに
感謝とお詫びは忘れない♡

でもそのおかげで とってもはっぴーに学校生活を送れた
先生や友達そしてボランティアにも恵まれて
私の今があることは私は忘れてはならない
入学した頃よく泣かされることになったクラスメイトと 今親しいし
最近親しくしている友人のお姉さまは私の先輩という不思議なご縁も♡

入学から約 20 年

私と 6 つ違いの妹が学校と同じ沿線に就職

私が 1 年生の頃 私に給食を食べさせる母の膝の上で 私が食べ残すパンの耳をかじっていた妹が
そして妹も はっぴーなことに人生の伴侶と出逢う♡
彼と私はずっとちゃん付けで呼び合う もう四半世紀
会うたびに私の頭を撫でながら「モンチッチ」はナニ？
なんか許せちゃう私♡

そして去年から彼らの娘が 同じ沿線に通学

キミはどんなはっぴーに出逢うかな？

キンはたくさんのお出逢いと経験を得た

パパとママは出逢って キミにも恵まれて とことんはっぴー♡

キミにもはっぴーが訪れることを

キンは祈っているよ♡

